

# 令和6年度第1回静岡県産業教育審議会

日 時 令和7年1月22日(水)  
午前10時から12時まで  
会 場 県庁別館9階第2特別会議室

## 次 第

### 1 開会

### 2 あいさつ

静岡県教育委員会教育長

### 3 委員紹介(資料1)

### 4 会長・副会長の選出

### 5 会長・副会長あいさつ

### 6 趣旨説明

(1) 諮問事項及び検討の視点等(資料4・資料5)

(2) 開催計画(資料6)

### 7 議事

(1) 各専門部会の設置(資料7)

(2) 産業全般及び各専門学科等の現状と課題

(資料8・資料9・資料10・別冊資料)

(3) 各委員からの意見(質疑含む)、検討事項

(4) その他

### 8 閉会

## 静岡県産業教育審議会委員

任期：令和7年1月1日～令和8年12月31日（2年間）

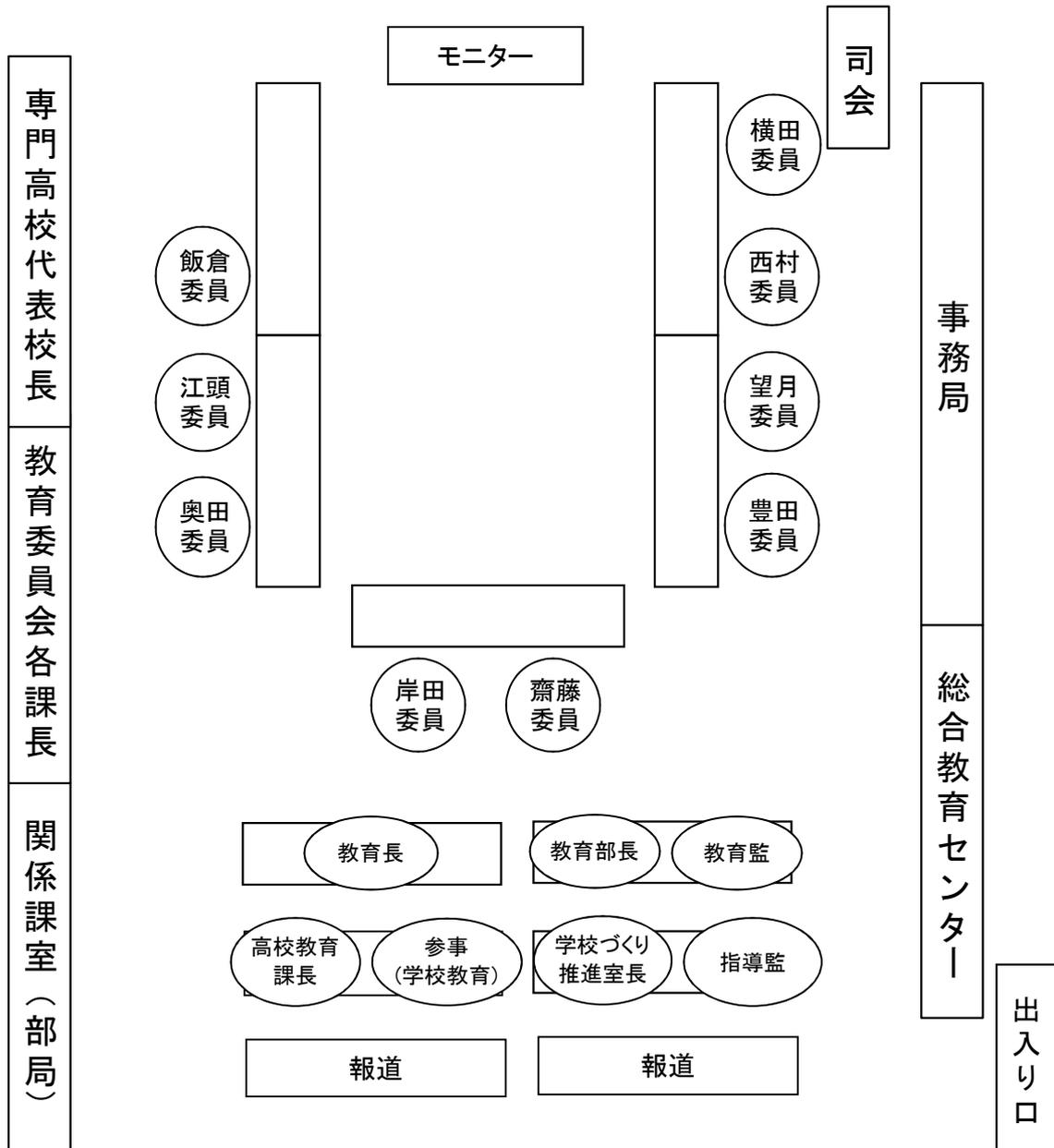
(50音順 敬称略)

No.	氏名	役職	備考
1	飯倉 清太	特定非営利活動法人NPOサプライズ代表理事	
2	上野 雄史	静岡県立大学経営情報学部経営情報学科教授	オンライン
3	江頭 綾子	ヤマハ発動機株式会社 執行役員 ソリューション事業本部長	
4	奥田 都子	静岡県立大学短期大学部社会福祉学科准教授	
5	川田 善正	静岡大学副学長	オンライン
6	岸田 裕之	静岡ガス株式会社代表取締役 取締役会長	
7	齋藤 寛	東海大学海洋学部学部長	
8	豊田 由美	特定非営利活動法人スマイルベリー 施設長	
9	西村やす子	株式会社 CREAMFARM 代表取締役	
10	村木 則予	株式会社アトリオン代表取締役	オンライン
11	望月 康弘	静岡県立静岡農業高等学校校長	
12	横田 茂永	静岡県立農林環境専門職大学短期大学部学科長	

# 令和6年度 第1回静岡県産業教育審議会 座席表

日時 令和7年1月22日(水)午前10時～12時

場所 県庁別館9階特別第二会議室



## 資料 2

## 令和 6 年度 第 1 回産業教育審議会 出席者名簿

## 専門高校代表校長（専門部会長）

所属	役職	氏名	部会名
県立田方農業高等学校長	校長	久保田 豊和	農業・水産部会
県立科学技術高等学校長	校長	小野 聡	工業部会
県立静岡商業高等学校長	校長	松浦 真一郎	商業部会
県立清水西高等学校長	校長	堀之内 育子	家庭・福祉部会
県立焼津水産高等学校長	校長	沼里 智彦	共通部会

## 教育委員会事務局

所属	役職	氏名	備考
教育委員会	教育長	池上 重弘	
	教育部長	水口 秀樹	
	教育監	塩崎 克幸	
	教育部参事	中山 雄二	
教育政策課	課長	秋野 薫	
教育D X推進課	課長	大澤 篤	
財務課	課長	上原 啓克	
教育施設課	課長	横田 恭子	
高校教育課	課長	中村 大輔	
	人事監	小原 快章	
	指導監	大澤 貢	
	学校づくり推進室長	桑原 克之	
高校教育課学校づくり推進班	班長	金子 雅也	
	教育主幹	河内 慶太	
高校教育課指導第 2 班	班長	向中野 真記	
	教育主幹	片井 伴浩	
	教育主幹	平尾 順哉	
	教育主幹	山口 亮祐	
	教育主査	朝比奈 玲子	

## 部局・総合教育センター

所属	職名	氏名	備考
経済産業部就業支援局職業能力開発課	課長	佐野 勝洋	
経済産業部水産・海洋局水産振興課	課長	吉野 晃博	
経済産業部農業局農業戦略課	課長	勝地 孝則	
経済産業部商工業局商工振興課	課長	花嶋 慶	
スポーツ・文化観光部総合教育局大学課	課長	本橋 夏生	
県総合教育センター	所長	杉山 禎	
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	班長	鈴木 俊士	工業部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主幹	福岡 亜紀枝	家庭・福祉部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主査	杉山 暢啓	商業部会
県総合教育センター高等学校支援課高校第 3 班	教育主査	山下 高充	農業・水産部会

## 静岡県産業教育審議会諮問事項等

## 1 諮問事項及び検討の視点

## (1) 諮問事項

専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方

## (2) 検討の視点

## ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成

専門高校においては、AIやIoT、ロボティクス等の技術革新やデジタル化に対応できる高度で実践的な知識や技術、地域産業への貢献意識、専門分野を越えた技術の融合を図れるゼネラリストとしての能力等を備えた次代の産業を担う人材を育成する必要がある。また、教員には最新の知識や技術の習得、地域との連携を深めるコーディネート力等が求められ、実践的な教育を保障するための施設や設備の整備も重要である。

## イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成

社会・経済のグローバル化に伴う国際競争の激化と空洞化の進行、資源・エネルギー制約の強まり等の中で、先行きの不透明感が強まっている。このような中、本県の現在の経済規模を維持、成長させていくためには、これまで以上に、起業家精神と経営感覚を併せ持ち、新産業の創出にも積極的に参画できるスタートアップ人材等の高度職業人を育成する必要がある。

## ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

少子化に伴う生徒数減少や小規模校化により、教育の質の維持が困難になりつつある。この課題に対応するため、生徒や地域のニーズを踏まえた学科やコースの新設・改善を進めるとともに、地域や産業界と連携した実践的学習の充実を図る必要がある。また、学科間・学校間の連携を強化し、相乗効果を生む学びの環境整備や、志願者確保のための専門高校等の魅力化、県全体の配置バランスや学校の規模と配置の適正化が求められる。

## 2 諮問理由

社会が急速に変化する中で、職業に必要とされる知識・技術も絶え間なく変化し高度化しており、本県においても、これらの変化に対応できるデジタル人材や新産業の創出に貢献できるスタートアップ人材の育成、深刻な少子化の中で地域の産業を担う人材の確保が課題となっています。こうしたことから、これからの時代に対応した産業教育について新たに検討を行っていく必要性があり、本審議会において審議をお願いいたします。

なお、本審議会には、令和7年9月を目途に中間まとめを、令和8年2月を目途に答申をいただければと考えております。

令和6・7年度審議会 「専門高校等におけるこれからの時代の対応した産業教育の在り方」		
審議内容	検討の視点	具体的な方策例
ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成	(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門性の高い外部人材・施設における高度な知識・技術を学ぶ機会の充実</li> <li>○デジタル化、スマート化等に対応した学習内容の充実 (例) 大学、企業等と連携した教育システムの構築、特別教諭の増員、企業とのエコシステム等の構築、AIやIoT等の先端技術への対応 等</li> </ul>
	(2) 教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員に必要な知識・技術等及び教科指導力の向上 (例) コーディネーターや実務家教員の拠点校配置及び近隣校での巡回授業・教員研修 企業・職業訓練施設等と連携した教員研修の充実 等</li> </ul>
	(3) 施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心安全な実習施設の整備 (例) 老朽化対策、空調設備、HACCP・GAP対応 等</li> <li>○学びの保障、技術・技能の高度化等を図るための設備の整備、企業施設との乖離解消 (例) スマート化、DX化、高性能PC 等</li> </ul>
イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成	(1) 地域産業の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県プロジェクトと連携した次代を担うイノベーターの育成 (例) AOI、MaOI、フォトンバレーセンター等における生徒の研究活動支援 地域産業への理解・体験事業、他分野との連携による新技術の開発 等</li> </ul>
	(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題発見力、主体的・協働的な解決能力、マーケティング能力の育成</li> <li>○幅広く社会、経済、産業を見る能力の育成 (例) アントレプレナーシップ教育、スタートアップ教育、データサイエンス 等</li> </ul>
	(3) グローバル化への対応 (国内外)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○諸外国との交流推進と外国語によるコミュニケーション能力の向上 (例) 教員や生徒の海外派遣事業の実施、海外での活躍経験を持つ技術者による講話 ポルトガル語等のコミュニケーション機会、外国人学校との交流 等</li> </ul>
ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備	(1) 魅力的な専門学科の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の成長産業、スマート化、DXやグローバル化に対応した教育カリキュラム (例) ロボティクス科、未来エネルギー科、マリンバイオ科、バカロレアCP 等</li> <li>○学科間・学校間の横のつながりによる学びの拡充 (例) 理数科と工業科、工業科と商業科、商業科と農業科 等</li> </ul>
	(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少子化における生徒の分散化改善のための専門高校等の整備 (例) オンラインとオフラインを活用したハイブリット教育 等</li> <li>○カリキュラムや地域バランスを踏まえた学科等の配置 (地域の課題を踏まえ) (例) 小規模校適正化のための再編、普通科との併置、専門高校単位制 等</li> </ul>

## 静岡県産業教育審議会開催計画（予定）

年度	月	審議会	専門部会
6	1	第1回 ○ 説明（諮問事項・開催計画等） ○ 承認（専門部会の設置） ○ 審議（現状と課題、前回答申具現化進捗状等）	第1回
	2		第2回 審議テーマAについての資料作成
7	4	第2回 ○ 報告（部会検討内容） ○ 審議（社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成）	
	5		第3回 審議テーマIについて資料作成
	6	第3回 ○ 報告（部会検討内容） ○ 審議（県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成）	共通部会 審議テーマIについて4部会案のまとめ
	7		第4回 審議テーマUについて資料作成
	8	第4回 ○ 報告（部会検討内容） ○ 審議1（これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備） ○ 審議2（中間まとめ(案)）	共通部会 審議テーマUについて4部会案のまとめ
	9	● 中間まとめ 「専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方」 答申（案）公表	
	11		第5回 答申（案）作成
	12	第5回 ○ 報告（部会検討内容） ○ 審議（専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方）	
	2	第6回 ○ 審議（答申） ● 答申 「専門高校等におけるこれからの時代に対応した産業教育の在り方」	

## 静岡県産業教育審議会 専門部会委員

## 1 農業・水産

	所属・役職	氏名	備考
1	県立田方農業高等学校 校長	久保田 豊和	
2	県立焼津水産高等学校 校長	沼里 智彦	
3	県立富岳館高等学校 副校長	秋山 達	
4	県立静岡農業高等学校 副校長	望月 基希	
5	県立焼津水産高等学校 教頭	西島 靖真	
6	県立小笠高等学校 教頭	望月 達彦	
7	県立天竜高等学校 教諭	柴田 康佑	
8	県立浜松大平台高等学校 教諭	久保田 文美	
9	県立焼津水産高等学校 教諭	千野 和史	
10	MaOI 機構コーディネーター	岡本 一利	
11	AOI 機構コーディネーター	和田 仁	
12	株式会社鈴生 取締役社長	鈴木 貴博	
事務局	高校教育課指導第2班 教育主幹	平尾 順哉	
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主査	山下 高充	

## 2 工業

	所属・役職	氏名	備考
1	県立科学技術高等学校 校長	小野 聡	
2	県立浜松工業高等学校 校長	野崎 真司	
3	県立掛川工業高等学校 教頭	小林 礼治	
4	県立科学技術高等学校 教諭	秋山 泰三	
5	県立伊豆総合高等学校 教諭	小谷 安孝	
6	協立電機株式会社 取締役 本部長	新井 由朗	
7	静岡県工業技術研究所 所長	櫻川 智史	
8	中小企業団体中央会 理事	眞野 匡雄	
事務局	高校教育課指導第2班 教育主幹	山口 亮祐	
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 班長	鈴木 俊士	

## 3 商業

	所属・役職	氏名	備考
1	県立静岡商業高等学校 校長	松浦真一郎	
2	県立袋井商業高等学校 校長	花崎 昌史	
3	県立浜松商業高等学校 副校長	袴田 康行	
4	県立稲取高等学校 教頭	香月 菜穂子	
5	県立浜松商業高等学校 教諭	木下 幹比呂	
6	県立浜松大平台高等学校 教諭	高橋 優子	
7	静岡鉄道株式会社 取締役執行役員	杉澤 恒	
8	静岡信用金庫 経営相談部 部長	多々良和明	
9	有限会社春華堂 専務取締役	間宮 純也	
10	税理士法人芙蓉会計事務所 代表社員	山田 知広	
事務局	高校教育課指導第2班 教育主幹	片井 伴浩	
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主査	杉山 暢啓	

#### 4 家庭・福祉

	所属・役職	氏名	備考
1	県立清水西高等学校 校長	堀之内育子	
2	県立富士宮東高等学校 校長	鈴木 香	
3	県立磐田南高等学校 教頭	向井 愛子	
4	県立御殿場高等学校 教諭	田中 悟子	
5	県立駿河総合高等学校 教諭	高木 優子	
6	県立天竜高等学校 教諭	大庭 千歳	
7	県立磐田北高等学校 教諭	鈴木 一彰	
8	社会福祉法人天竜厚生会 入所支援課 係長	石田 路治	
9	社会福祉法人駿府葵会 教育管理部 部長	齋藤 升美	
10	株式会社食の学び舎くるみ 代表取締役	中野 恭子	
事務局	高校教育課指導第2班 教育主査	朝比奈玲子	
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主幹	福岡亜紀枝	

#### 5 共通部会

	所属・役職	氏名	備考
1	県立焼津水産高等学校 校長	沼里 智彦	農業・水産
2	県立小笠高等学校 教頭	望月 達彦	農業・水産
3	県立掛川工業高等学校 教頭	小林 礼治	工業
4	県立伊豆総合高等学校 教諭	小谷 安孝	工業
5	県立稲取高等学校 教頭	香月菜穂子	商業
6	県立浜松商業高等学校 教諭	木下幹比呂	商業
7	県立磐田南高等学校 教頭	向井 愛子	家庭・福祉
8	県立磐田北高等学校 教諭	鈴木 一彰	家庭・福祉
9	静岡産業大学総合研究所 所長	中山 勝	
事務局	高校教育課指導第2班 班長	向中野真記	
	高校教育課指導第2班 教育主幹	平尾 順哉	農業・水産
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主査	山下 高充	農業・水産
	高校教育課指導第2班 教育主幹	山口 亮祐	工業
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 班長	鈴木 俊士	工業
	高校教育課指導第2班 教育主幹	片井 伴浩	商業
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主査	杉山 暢啓	商業
	高校教育課指導第2班 教育主査	朝比奈玲子	家庭・福祉
	県総合教育センター高等学校支援課高校第3班 教育主幹	福岡亜紀枝	家庭・福祉

※必要に応じて、各回の審議内容に係る外部人材を招聘できる。

## 本県の高等学校における産業教育の現状

### 1 現状

- ・令和6年度の公立高等学校全日制課程定員のうち、25.4%を職業系専門学科、8.0%を総合学科が占めている。【別冊資料編 p.5】
- ・公立高等学校では、農業（6校）、水産（1校）、工業（10校）、商業（14校）、家庭（1校）、福祉（4校）の職業系専門学科と総合学科（9校）が設置されている。【別冊資料編 p.5】
- ・今後も人口減少が続き、生徒数の減少がさらに進むことが見込まれている。【別冊資料編 p.8】
- ・職業系専門学科及び総合学科に所属している7割以上の生徒は、中学3年生の4月時点で、現在在籍している学校・大学科を志望していた。【別冊資料編 p.9,10】
- ・専門学科の学習に「満足している」「だいたい満足している」生徒は、9割を超える。【別冊資料編 p.10,11】
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域、企業、高等教育機関、行政機関等との連携が推進されており、いっそう充実させる必要がある。【別冊資料編 p.11,12】
- ・職業系専門学科及び総合学科の卒業生のうち、5割弱は就職している。また、その9割近くは県内企業に就職している。【別冊資料編 p.13】
- ・県教育委員会及び各学校においてさまざまな取組を実施している。【別冊資料編 p.14～17】
- ・近年の学科改善についての動向【別冊資料編 p.18～20】
- ・総合学科は、普通教育及び専門教育の選択履修を旨として総合的に行う学科であり、県立高校9校に設置されている。【別冊資料編 p.21】
- ・静岡県産業成長戦略会議においても、人材確保、デジタル化、グローバル化等が課題としてあげられている。【別冊資料編 p.50】
- ・令和4年度より県立高等学校の在り方に係る地域協議会が開催されており、専門高校等の在り方についても様々な意見をいただいている。【資料9】

### 2 議論の方向性

資料4・資料5・別冊資料・「静岡県立高等学校の在り方に関する基本計画（p28-31、p.52-53）」等を踏まえ、これからの時代の専門高校等においてどのようなことが求められるか。

なお、「静岡県立高等学校の在り方に関する基本計画」では、職業系専門学科の広域的な在り方、カリキュラムや地域バランスなど、多岐に渡る論点・課題を検討・整理するため、「静岡県産業教育審議会」において、時代の変化を見据えた検討を進めることとしている。

## 産業教育全般における課題（地域協議会での意見）

## 1 地域協議会とは

地域の将来的なビジョン等を踏まえ、地区ごとに具体的な高等学校の方向性を示すグランドデザインを作成する。

## (1) 構成員

関係首長、市町教育長、同窓会長、PTA会長、関係団体代表者、産業界代表者、高等学校長、中学校長

## (2) 設置状況

県内を11地区に分け設置

(賀茂、田方、沼津、北駿、富士、清庵、静岡、志榛、小笠、磐周、西遠)

## 2 主な意見（産業教育関係）

<p>(1) 社会に求められる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域産業の担い手、<u>地域社会の担い手</u>としての人材育成が必要</li> <li>○地元の高校生たちが<u>地元で働いてくれる</u>ことを地域は期待</li> <li>○高校卒業後に<u>即戦力として働く人材</u>の育成や、<u>専門知識</u>を必要とする専門学科への地元経済界のニーズが存在</li> </ul>	<p>(2) 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○産業界と連携し、高校生が<u>地域産業の力になれるという自信</u>を持つような取組の実施</li> <li>○産業教育を通じて<u>地元の魅力ある産業</u>を知り、高校生がその産業に関わりたいと思うことを促進</li> <li>○地域連携は、<u>地元に戻る動機</u>を生むとともに、企業の潜在的な力や可能性を知る機会</li> </ul>
<p>(3) 今後の学びの方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が<u>最先端の科学技術</u>や特色ある教育プログラムの中で学べるかが大事</li> <li>○ICT等の先端技術は5年経過すると古くなり、<u>最新の設備</u>が必要</li> <li>○<u>高校時代の体験</u>がきっかけになっていることが多く、自分は何をしたいのか、どういう人間になりたいのかを考えることができるような教育が必要</li> <li>○<u>地域を見据えた実学</u>、つまり普通科と農工商を含めた実学教育が不可分</li> <li>○普通科、商業科、工業科だけでは今後の発展は難しく、<u>連携を密に</u>することが必要</li> </ul>	<p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○普通科に入ることによって選択肢が広がるため、保護者が普通科を求める気持ちは理解できる</li> <li>○小規模校における<u>学びの質の保障</u>が重要</li> <li>○専門性の高い教育の選択肢を確保するため、<u>それ相応の規模</u>が必要</li> </ul>

## 農業教育の現状と課題

## 1 学習指導要領による目標（別冊資料 p. 1）

- (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。
- (2) 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

## 2 特徴的な取組

- (1) データを活用した農業や農産物のブランド化を主体とした新たな学科の研究  
(別冊資料 p. 24)
- (2) 最先端技術を学ぶための、外部人材や設備等の活用（別冊資料 p. 25）
- (3) 併置する特別支援学校との共同授業等（別冊資料 p. 26）

## 3 課題

## ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成

(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	○IoT や AI を活用したスマート農業で必要となる実践的なスキルや、問題解決能力の育成を重視したカリキュラムの構築 ○農業技術の進展や外的要因の急激な変化等で、農業人に求められる専門的資質・能力が変化への迅速な対応
(2) 教員の資質向上	○教員間における専門的な技術の継承と、 <u>スマート農業等で求められる先端的な知識や技術の習得</u>
(3) 施設・設備の整備	○施設・設備等の更新（ <u>農産業の即戦力の育成に必要な、先端農業法人と同等程度の施設・設備の充実</u> ）

## イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成

(1) 地域産業の継承と創造	○地域農業の特性を理解し、持続的・発展的に地域農業を支え、その振興に寄与する人材の育成
(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	○実践的な経営活動とマーケティングの視点を取り入れた探究的な学習の推進 ○アントプレナーシップの醸成に必要な、 <u>創造性や経営感覚などの資質の育成</u>
(3) グローバル化への対応（国内外）	○近年の農業生産や経営におけるグローバル化に対応できる、 <u>国際感覚や柔軟な適応力を持つ次世代農業で求められる人材の育成</u> ○グローバル感覚の醸成に必要な海外研修等の推進 ○グローバル社会で求められる、異文化コミュニケーションに必要な英語力やコミュニケーション能力を向上させる機会の設定

## ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

(1) 魅力的な専門学科等の在り方	○農業の6次産業化を踏まえた学科間連携を軸とした魅力ある農業教育の推進 ○地域と連携した <u>地域資源の新たな付加価値を創造する探究的な学習の推進</u>
(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	○地域農業からの要望や生徒数の推移予想を踏まえたうえ適性規模で、ICT 技術等の先端技術を取り入れた質の高い農業教育の提供 ○地域産業が求める <u>人材育成の拠点として、地域経済活性化への寄与</u>

# 水産教育の現状と課題

## 1 学習指導要領による目標（別冊資料p.1）

- (1) 水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) 水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

## 2 特徴的な取組

- (1) 水産資源を活用した新商品開発の研究・促進（別冊資料p.27）
- (2) グローバルな視点で活躍できる人材育成の推進（別冊資料p.28）
- (3) 「持続可能な水産業の実現」を目指した、企業や大学等と連携した共同研究の推進

## 3 課題

### ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成

(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	○ICT 技術を取り入れた <u>スマート水産業に必要な知識・技術の習得に必要なカリキュラムの検討と再構築</u> ○ICT や AI、ロボット技術などの先端技術に触れる機会の設定
(2) 教員の資質向上	○教員間における専門的な知識・技術の継承 ○先端技術を持つ企業や大学等との連携や、 <u>スマート水産業に関連した教員の研修や交流等の充実</u>
(3) 施設・設備の整備	○先進的な水産企業等と学校の施設・設備の乖離の解消（施設・設備の更新）

### イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成

(1) 地域産業の継承と創造	○探究的な学習から地域水産業の現状と課題を整理・把握し、 <u>次世代への伝統産業の継承と新しい付加価値を持つ水産業の検討</u>
(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	○マーケティングの視点を取り入れた探究的な学習の推進 ○水産業の現場理解を深める過程で経営感覚も身に付ける機会の設定
(3) グローバル化への対応（国内外）	○異なる文化や価値観を理解し、多様な視点から問題を考える能力を持つ人材の育成 ○グローバル感覚の醸成に必要な海外寄港地での研修や交流の更なる充実

### ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

(1) 魅力的な専門学科等の在り方	○水産高校ならではの施設・設備を生かした魅力ある水産教育の推進 ○地域産業に求められる教育活動を継続しつつ、 <u>先進的な知識や技術等を反映した学習内容の更新</u> ○遠隔教育システム等を利用した、他県の水産高校や企業・大学等との連携の促進
(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	○地域コミュニティとの連携を強化し、生徒が実践的な学びを得られる学習環境の整備 ○ <u>地域水産業を支える人材育成の拠点機能の促進</u>

## 工業教育の現状と課題

### 1 学習指導要領による目標（別冊資料 p. 2）

- (1) 各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

### 2 特徴的な取組

- (1) ものづくり産業を支える若い技能者の技能向上や研究の成果を確かめたり他校との交流により切磋琢磨につながる競技大会（ものづくり、エコラン等、別冊資料 p. 31, 32）
- (2) 産業界と専門高校が一体となり、地域産業の持続的な成長を牽引する最先端人材を育成する実践研究（マイスターハイスクール 別冊資料 p. 33）
- (3) 工業教育活性化に向けた研究協議や研修（別冊資料 p. 34）

### 3 課題

#### ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成

(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工業の見方・考え方を働かせることができる学びの推進</li> <li>○体系的・系統的なキャリア教育の推進</li> <li>○教育 DX の推進、AI の進展を前提としたデジタル人材の育成</li> </ul>
(2) 教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい技術に対応した実習、技術習得に特化した教職員研修</li> <li>○ものづくり技術の伝承</li> <li>○生徒の資質・能力の向上に資する効果的な ICT 活用</li> </ul>
(3) 施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化した設備の更新、企業施設との乖離解消</li> <li>○時代に即した人材育成を図ることができるような産業教育設備の整備の充実</li> </ul>

#### イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成

(1) 地域産業の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動の実施</li> <li>○社会人講師を積極的に活用する工夫</li> </ul>
(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探求したりすることができる知識・能力・態度を身につける教育</li> </ul>
(3) グローバル化への対応（国内外）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産業界と連携した交流・視察・体験等の充実</li> <li>○異なる価値観を持つ人々と協働して課題解決する場面</li> </ul>

#### ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

(1) 魅力的な専門学科等の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校と産業界が連携し、学校の魅力化を図ると共に地域産業人材育成の使命を果たす</li> <li>○文理横断、教科横断、学科横断の推進、探究・STEAM 教育、科目「課題研究」の充実</li> </ul>
(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の学習の基盤となる資質・能力の育成</li> <li>○産業界における最新技術のトレンドやツールに対応する教育活動</li> <li>○生徒が新しい知識と技術を習得できるような教育課程の更新</li> </ul>

## 商業教育の現状と課題

### 1 学習指導要領による目標（別冊資料 p. 3）

- (1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

### 2 特徴的な取組

- (1) 専門高校等に対する理解促進【地域の課題解決に取り組む活動】（別冊資料 p. 36）
- (2) 地域資源を活用した新商品開発の研究・促進（別冊資料 p. 37）
- (3) 商業教育の活性化に向けた主な取組（別冊資料 p. 38）

### 3 課題

#### ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成

(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>産業界や地域が求めるニーズと高校における商業教育との乖離</u></li> <li>○AI、IoT、ビッグデータなど情報化の進展に対応してビジネスを展開できる実践的な <u>ICT 人材の不足</u></li> <li>○<u>技術革新・産業構造の変化、グローバル化等の社会の急激な変化に伴う習得が期待される資質・能力の変化への対応の遅れ</u></li> </ul>
(2) 教員の資質向上	○ <u>教員が技術革新やビジネスモデルの変化に対応するための <u>リスクリング</u></u>
(3) 施設・設備の整備	○ <u>機器の老朽化</u> (時代の変化や技術革新に対応した教育活動の展開に必要な施設設備の充実)

#### イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成

(1) 地域産業の継承と創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>地域との協働による <u>地域活性化のための取組</u>をより一層推進していくことが必要</u></li> <li>○<u>地域産業の状況を鑑み、専門教科それぞれの学びを確保しつつ、<u>地域産業を支える人材育成の機能</u>を果たす専門高校が必要</u></li> </ul>
(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	○ <u>チャレンジ精神や積極性、自己肯定感の向上など、<u>起業家精神と経営感覚</u>を併せ持つ職業人の育成が必要</u>
(3) グローバル化への対応（国内外）	○ <u>多様な価値観や異文化を理解し共生・協働することや、インバウンド対応など、コミュニケーションを図るため英語教育も必要であり、<u>産業教育における英語力向上</u>に向けた取組が必要</u>

#### ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

(1) 魅力的な専門学科等の在り方	○ <u>商業教育の <u>特色化</u>や <u>魅力化</u>が不十分であり、商業教育における <u>独自性</u>が低下している</u>
(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	○ <u>商業高校を地域の拠点として、<u>他学科の高校と商業科の特色を融合した取組</u>を行うなどの連携が必要</u>

# 家庭教育の現状と課題

## 1 学習指導要領による目標（別冊資料p.3）

- (1) 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。
- (2) 生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

## 2 特徴的な取組

- (1) キャリア教育の推進に関する取組（別冊資料p.40）
- (2) 高度化する知識・技術への対応に関する取組（別冊資料p.41）
- (3) グローバル化等への対応に関する取組（別冊資料p.42）
- (4) 専門高校等に対する理解促進に関する取組（別冊資料p.43,44）

## 3 課題

### ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成

(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	○科学技術や産業の発展に主体的に対応できる人材を育成するための問題解決的な学習の充実 ○地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的・体験的な学習活動、就業体験活動の推進 ○デジタル社会に対応した学びの促進
(2) 教員の資質向上	○新しい知識や技術に対応した教員の研修機会の創出 ○経験年数の浅い教員への技術・技能の継承
(3) 施設・設備の整備	○老朽化した施設や安全に実習ができる設備の整備

### イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成

(1) 地域産業の継承と創造	○地域の生活産業の伝承と創造に関する学習の充実と外部人材（産業界）とのネットワーク作り ○地場産業との交流や地域企業での職場見学・インターンシップ等、先端技術をどのように地場産業につなげているのかなどについて学習する機会の創出
(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	○将来、生活産業に従事するスペシャリストとして社会で働くことを通して社会の発展に寄与しようとする実践的な態度の育成
(3) グローバル化への対応（国内外）	○日本と海外の生活様式や生活文化等の学習を通して、多文化理解を深める学習の充実 ○外国語によるコミュニケーション能力の育成

### ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

(1) 魅力的な専門学科等の在り方	○専門教科と共通教科の内容の関連を図り、専門学科での学びがより深まり高度な専門性を確実に身に付けられたり、地域産業の課題の解決を図るためのカリキュラムの開発・改善 ○高等教育機関等との接続を視野に入れた高大連携等の取組の充実
(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	○公立高校に1校しかない家庭の専門学科と他校との連携強化

# 福祉教育の現状と課題

## 1 学習指導要領による目標（別冊資料p.4）

- (1) 福祉の各分野について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。
- (2) 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

## 2 特徴的な取組

- (1) 学力の確保・向上に関する取組（別冊資料p.45）
- (2) キャリア教育の推進に関する取組（別冊資料p.46）
- (3) 高度化する知識・技術への対応に関する取組（別冊資料p.47）
- (4) 専門高校等に対する理解促進に関する取組（別冊資料p.48,49）

## 3 課題

### ア 社会の急激な変化に主体的に対応できる専門的資質・能力の育成

(1) 職業に必要な知識・技術等の高度化・複雑化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護現場におけるセンサ、AI、ビッグデータによる見守りシステムの導入への対応等、科学的介護、介護DX人材の育成に対応するための専門性の高い学習</li> <li>○進展する技術に対応するため、<u>専門性の高い外部人材の活用や地域の福祉施設・大学等と連携</u></li> </ul>
(2) 教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高度化する知識や技術に対応するための教員の研修機会の創出</li> <li>○福祉系高等学校における<u>教員の確保</u>（医療的ケア等を教授できる教員の確保等）</li> </ul>
(3) 施設・設備の整備	○老朽化した施設や安全に実習ができる設備の整備

### イ 県内産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力の育成

(1) 地域産業の継承と創造	○医療福祉施設や高等教育機関、社会福祉協議会、福祉行政等と連携して、地域の福祉現場に必要な知識及び技術を習得するとともに、 <u>福祉人材としての高い志の醸成</u>
(2) 起業家精神と経営感覚の醸成	○介護福祉士として介護の専門知識を持ち、施設内でリーダーシップを発揮して <u>介護チームの中心となって働くことのできる人材の育成</u>
(3) グローバル化への対応（国内外）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海外の社会福祉や福祉事業を理解し、<u>福祉現場のグローバル化に対応</u>できる学習の充実</li> <li>○外国語によるコミュニケーション能力の育成</li> </ul>

### ウ これからの時代に対応できる学科改善の在り方と少子化に伴う専門高校等の適正な整備

(1) 魅力的な専門学科等の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>学科間連携や学校間連携</u>による学びの充実</li> <li>○高大・高専連携の取組を推進</li> </ul>
(2) 少子化や地域産業を考慮した適正な専門高校等の整備	○ICTを活用した他校との遠隔授業の導入等、 <u>県内の福祉科及び総合学科等の学校間の連携強化</u>